

2003年7月 No.432

京都の福祉

発行 京都府社会福祉協議会

〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375

TEL 075-252-6291 FAX 075-252-6310

発行人 大槻 明司

http://www.kyoshakyo.or.jp



施設内にできた居酒屋でおしゃべりを楽しむ利用者(吉祥ホーム 4面に関連記事)

もえくさ

「障害者虐待訴訟・サングループ事件」の大津地裁判決(三月二十四日)は、被告及び国と県の損害賠償責任(総額約一億七千七百万円)を認め、マスコミに大きく報じられた。▼この事件は、滋賀県五個荘町の肩パッド製造会社サングループを舞台に、雇用されていた障害者に対して、社長による暴行、監禁や労働基準法違反の長時間労働、ただ働き、年金横領など数々の虐待が行われていたもので、従業員十六名と一遺族が原告となり、平成八年十二月に提訴されていた。▼

判決では、社長の虐待の事実のもとより、国(労働基準監督署と職業安定所)の「不作為責任」(やるべきことをやらなかった)、県立知的障害者更生施設については、就労先選定等の調査義務と就職後のアフターフォロー義務を認めたことが注目された。▼地裁判決に対する弁護団の声明は、次のように述べている。「…知的障害者をめぐる裁判史上、画期的な判決。知的障害者が地域で安心して生活するため、誰がどのような責任を果たすべきかを問う人権裁判でした。…この判決は、知的障害者に関わる福祉・労働行政機関に対し、権利擁護を担うべき機関として、与えられた権限を最大限に行使してその職責を果たすべきことを求め、知的障害者の人権を守るのは行政の責任であることを明らかにした。…全国の施設で、地域で、懸命に生活している知的障害者の権利擁護の確立にとって、後世に残る金字塔になるに違いありません」と。そして、判決十一日後には、国と県が控訴断念を表明し、障害者の雇用をめぐる国の責任を初めて認めた判決が確定した▼原告を支援してきた「被害者を支える会」の高谷清代表は、判決が身体的虐待や経済的損失だけでなく、精神的苦痛(髪を切られ丸刈り状態にされた女性従業員の屈辱感や仲間を縛った鎖の鍵を持たされたつらさなど)・人格への侵害を裁き、賠償認定したことの重要性を指摘し、さらに「原告にもならない人がいたこと」、そして「社会には、孤独感・劣等感・無力感を持って生きている人がいっぱいいることを忘れてはならない」と述べている。▼福祉に携わる者の責務として、誰もが等しく、安全・安心で毎日の暮らしに楽しみのある、人としてあたりまえの生活を送れる社会を築いていかねばならない。

「家族でボランティア事業」を実施

ボランティア活動通じ家族の絆を深める

本会では、平成十五年度の新規事業として、「家族でボランティア事業」を実施します。この事業は、本年度の京都府新規予算を財源として開始することになったものであり、近年の核家族化や、離婚に伴う一人親世帯の増加等、家族をめぐる現代のさまざまな難しい状況の中で、家族の絆を深

める一つの手段として、家族でボランティア活動について学習・体験することを推進しようとするものです。本事業の意義や効果を広く府民に啓発することを目的に、①「家族でボランティアコーディネート実践講座」、②「家族でボランティア体験事業」（市町村社協実施）、③啓発冊子の作成、

④ミニフェスタの四つの柱で展開します。

ここでは、去る六月十日（火）、京都府民総合交流プラザ（京都テルサ）において、市町村社会福祉協議会の職員を対象に開催した「家族でボランティアコー

ディネート実践講座」の内容を報告します。

講座では、「家族でボランティア体験事業」について本会より事務局説明を行った後、「ファミリーボランティア活動を進めよう」家族でボランティアに取組むことの意義」をテーマに、元大阪工業大学教授角田禮三氏をお迎えし、ご講演いただきました。

角田氏は、まず、家族の現状として、家族の絆の崩壊によって家庭の教育力が低下し、それに伴って子ども達が、基礎的な習慣や道徳、自分をコントロールする自律心や自制心などを習得する機会が減少しているとし、そのことが、社会問題になっていると強調されました。

続いて、様々な調査研究結果をもとに、家庭の教育力の低下の原因やそれに伴って発生する課題、完全学校週五日制実施以降

の子どもの土曜日の過ごし方についてお話をしました。また、子どもを体験活動に参加させている親と一般の親との意識の違いを様々な側面から調査した「青少年の体験活動に関する調査研究」の内容について触れ、青少年の体験活動をすすめていくに

つなげたい。



プログラム例（抜粋）

■おじいさん・おばあさんと孫を対象にしたプログラム

<ちまき作りと友愛訪問>

葦とい草を取りに行く「おじいさん隊」と、団子をつくる「おばあさん隊」に分かれて、ちまき作りに挑戦。一緒にちまきを食べた後、メッセージ付きのカレンダーを作り、地域の一人暮らし高齢者宅を訪問する。

<ねらい>

- 世代間交流。
- 地域の中で展開されている住民活動（例：友愛訪問活動）を知る。
- 地域の中で生活する一人暮らし高齢者等、地域の様子を知る。
- 子どもたちのボランティア活動参加につなげる。

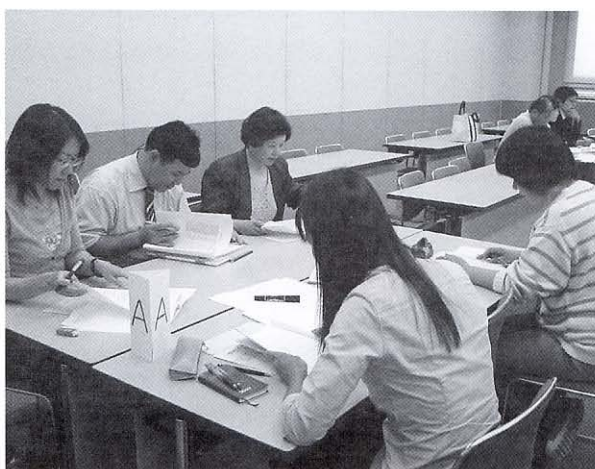
■母子家庭を対象にしたプログラム

<身近な地域住民との関係づくりのためのボランティア活動>

公民館や神社等、身近な地域の公共施設の清掃ボランティアに参加。

<ねらい>

- 地域住民とのつながりができ、困った時にサポートしてもらえる関係をつくる。
- 共通体験によって、親子のコミュニケーションが深まる。
- 福祉の「受け手」から「担い手」へ。



ボランティア活動を始めよう2003

VOLUNTEER HAND BOOK

ボランティア活動を 始めよう2003



CONTENTS

ボランティア活動ってどんなこと.....	2
ボランティア活動の4原則.....	3
ボランティアアラカルト.....	4
集めておくボランティア.....	8
ボランティア活動を始めるとはどうしたらいい?.....	12
府内のボランティアセンター紹介.....	14
活動する上で気をつけたいこと.....	18
ボランティア保険に加入しよう.....	19

京都府社会福祉協議会

好評配布中です

これからボランティアを始める方々に役立てていただきたい情報を盛り込んだハンドブックです。これまでに掲載した情報を刷新し、気軽に始められる「集めておく活動」の紹介ページを増やしました。内容は次のとおりです。

ボランティア活動ってどんなこと／ボランティア活動の4原則／ボランティアアラカルト／集めておくボランティア／ボランティア活動を始めるにはどうしたらいい?／府内のボランティアセンター紹介／活動する上で気をつけたいこと／ボランティア保険に加入しよう

※ハートピア京都地下一階のボランティアセンターで配布しています。

郵送ご希望の場合は、長形3号の返信用封筒に90円切手を貼り「ハンドブック希望」と表に明記して、下記までお送り下さい。

〒604-0874

京都府京都市中京区竹屋町通烏丸東入ル清水町375 京都府社会福祉協議会

地域福祉・ボランティア振興課 TEL: 075-252-6295 FAX: 075-252-6311

は、まず親自身が体験活動に参加するように働きかけ、その姿を子ども達に見せることによって、体験活動への参加意欲を促進することが重要であると強調されました。

さらに、家族と一緒にボランティア活動に取り組むことを通じて、家族の絆を強めるとともに、家族の問題解決能力を高めているという、アメリカの「ファミリー・マタ

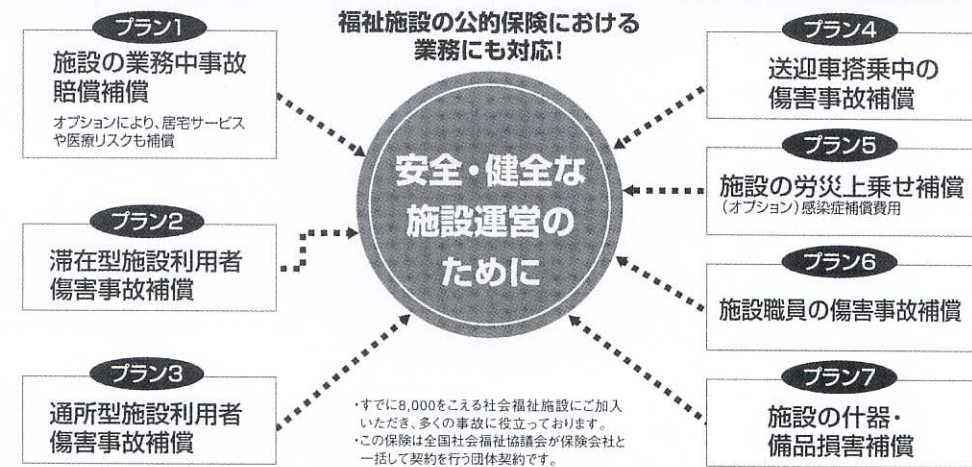
「家族でボランティア体験」を分かれ、実際に「家族でボランティア体験」を紹介し、家族でボランティア活動に取組むことの意義と、家族の絆を強めるために行うボランティア活動が、実は地域社会の活性化にもつながるとして、そのプロセスについてお話されました。

午後からは、参加者が四つのグループに分かれ、実際に「家族でボランティア体験」を実施しました。本会では、七月～十二月にかけて「家族でボランティア体験事業」を実施します。本会では、事業を実施する際のプログラム作りをしました。全体会ではそれぞれのグループが作成したプログラムについて、そのねらいや内容について報告がありました。

全国社会福祉協議会

しせつの損害補償

社会福祉施設総合損害補償



●お問い合わせ

取扱代理店

福祉保険サービス

ホームページも御覧下さい。http://www.fukushihoken.co.jp
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル TEL.03-3581-4667

施設内で居酒屋オープン

胃袋もびっくり、十年ぶりの晩酌に感激

特別養護老人ホームは要介護度1以上の高齢者が入所する施設です。介護保険施行後、選ぶことのできなかった特別養護老人ホームが各高齢者の好みに合わせて選ぶことができるようになり、入所待ち期間は人気がある施設ほど長くなりました。

また、最近ではユニットケアを柱として

組みたてられたケアシステムでお年寄りを支援するための設備が施された新型特養の建設も進むなか、各施設では利用者の個別ニーズの対応に取り組むなどの動きも活発になりました。

こうした中、特別養護老人ホーム 吉祥ホーム（山岸孝啓施設長）でユニークなサ

ービスが始まりました。それは、夕食後に施設の食堂の一部を開放して「居酒屋」をオープンするというものです。

オープン当日、私たち取材班も「居酒屋」の縄のれんをくぐらせていただきました。

午後六時。施設のロビーを抜け、食堂に入るところからか演歌の流行歌が聞こえてきます。

館内のエレベーターからは車いすの利用者や職員に付き添われた利用者が「居酒屋」に入っていきます。

当日のお客さんは事前に予約をされた十六名の利用

者です。

メニューは焼き鳥からたこ焼まで豊富ですがお酒は二合までの限定です。

八席ほどのテーブルはほぼ満席で、ウエイトレス役の私服の女性職員がお酒や食べ物を忙しく運んでいます。

利用者のPさんは「私はホームに入るまでは、五十二年間毎晩、家で晩酌をしていました。入所して十年、もちろん晩酌はしていませんでした。今日はじめてお酒を飲みました。きつと胃袋はびっくりしていると思います」とほろ酔い加減の笑顔。また、利用者のKさんはたまたま面会に来ていた娘さんと参加。「母は、この時間に面会に行く、いつも寝ているが、今日は母と一緒に何年かぶりにお酒を飲めて楽しかった」と、娘さんが話してくださいました。

今回の「居酒屋」の開設で新しい発見がありました。それは事前に予約をされた十六名の利用者の趣味にありました。

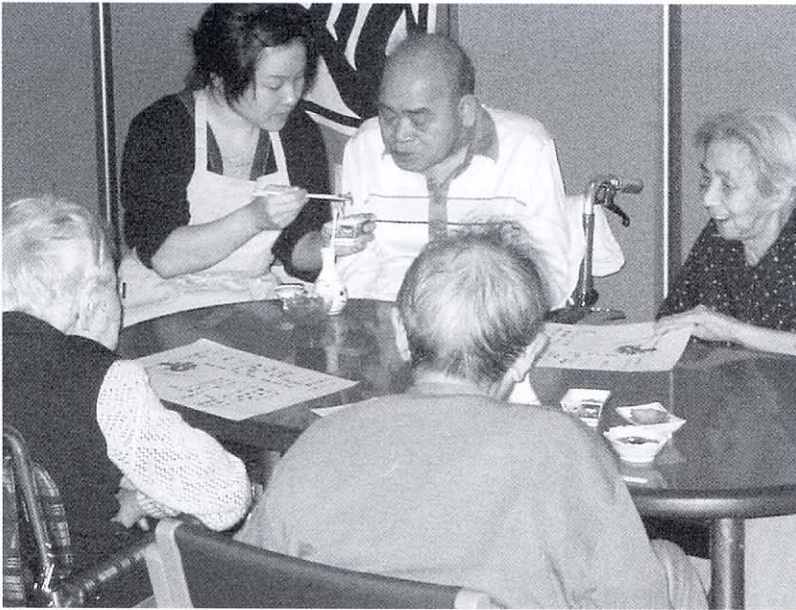
吉祥ホームには俳句、カラオケ、ちぎり絵などのクラブがあり利用者はそれぞれ好みのクラブに入り余暇活動を楽しまれます。

しかし、今回参加された十六名はそれらのどのクラブにも加入されていませんでした。

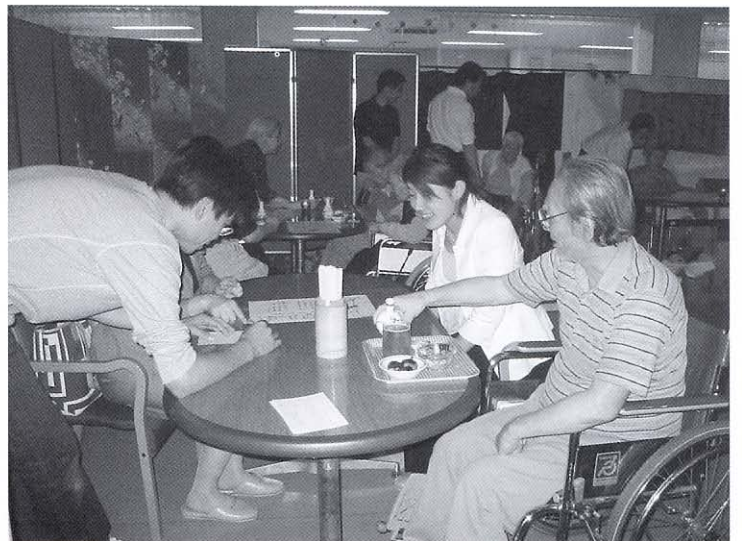
つまり十六名の方は施設にあるクラブ活動以外の余暇活動、自己主張の場が必要だったのです。

「お酒を飲むことは嗜好の一つです。お酒の好きな人にはお酒を飲んでいただきたい。こういう場でこそ自己主張できる人もいることが判明したことは大切」と山岸施設長は言います。

現在、施設では入浴も食事もマニュアル化して利用者はそれに合わせて生活しています。こうした生活の息抜きとなるのが余暇活動です。吉祥ホームでは今後も個人の生活スタイルを大切に余暇活動の充実や今回の「居酒屋」のような取り組みを試みたいとのことでした。



久しぶりのお酒に胃もびっくりしています。



ご注文は、ビールと冷や奴ですね。

京都府社会福祉協議会 平成14年度 一般会計・特別会計収支計算書(総括表)

公益法人としての透明性の確保のため、情報公開促進の立場にたつて、今年度より決算書を掲載することいたしました。
尚、紙面の都合上、掲載は一部とさせていただきます。事業報告、決算書については、当事業所において閲覧が可能です。 (単位：円)

		収入額 (前年度繰越金含む)	支出額	差引額	備考
一般会計		1,455,217,225	1,406,657,711	48,559,514	翌年度へ繰越し
特別会計	公益事業	15,712,000	15,712,000	0	
	収益事業	18,580,847	18,542,011	38,836	翌年度へ繰越し
	生福貸付事業費	1,166,056,193	411,772,216	754,283,977	翌年度へ繰越し
	生福貸付事業事務費	70,570,238	70,569,544	694	翌年度へ繰越し
	離職者支援資金貸付事業費	2,000,866,379	242,529,159	1,758,337,220	翌年度へ繰越し
	離職者支援資金貸付事業事務費	11,949,752	10,152,595	1,797,157	翌年度へ繰越し

京都府社会福祉協議会 平成14年度 財産目録

(単位：円)

科 目		金 額	科 目		金 額
1. 流動資産			3. 流動負債		
現金		249,235	未払金		114,893,970
一般会計	90,629		一般会計	80,148,671	
収益事業	93,242		公益事業	24,000	
生福資金事務費	50,854		収益事業	954,000	
離職者資金事務費	14,510		生福資金事務費	20,371,787	
郵便振替		11,133,915	離職者資金事業費	1,000,000	
一般会計	7,237,719		離職者資金事務費	12,395,512	
生福資金事業費	3,874,796		預り金		12,153,222
離職者資金事業費	21,400		一般会計	11,676,644	
普通預金		391,319,928	生福資金事業費	430,037	
一般会計	87,381,916		生福資金事務費	27,154	
公益事業	24,000		離職者資金事務費	19,387	
収益事業	235,333		4. 固定負債		
生福資金事業費	229,747,310		交付金		7,416,262,500
生福資金事務費	422,293		生福資金事業費	5,416,262,500	
離職者資金事業費	59,311,530		離職者資金事業費	2,000,000,000	
離職者資金事務費	14,197,546		借入金	一般会計	650,000,000
定期預金		2,227,616,908	退職給与引当金	一般会計	130,687,460
一般会計	27,525,000		負債合計		8,323,997,152
生福資金事業費	500,091,908		差引正味財産		624,291,987
離職者資金事業費	1,700,000,000				
未収金		59,662,989			
一般会計	18,149,565				
収益事業	582,646				
生福資金事業費	21,000,000				
生福資金事務費	19,926,488				
離職者資金事業費	4,290				
貯蔵品	収益事業	81,615			
2. 固定資産					
I. 基本財産					
定期預金	一般会計	3,070,000			
II. その他の固定資産					
車両運搬具	一般会計	179,500			
器具及び備品		11,092,547			
一般会計	4,456,967				
生福資金事務費	3,573,150				
離職者資金事務費	3,062,430				
権利		971,968			
一般会計	929,968				
生福資金事務費	42,000				
ソフトウェア	一般会計	532,350			
貸付金		5,639,305,303			
一般会計	735,664,000				
生福資金事業費	4,661,978,523				
離職者資金事業費	241,662,780				
退職積立預け金 〔積立預金〕		130,687,460			
普通預金		22,077,448			
一般会計	22,068,000				
生福資金事業費	3,041				
離職者資金事業費	6,407				
有価証券	一般会計	269,351,000			
信託預金	一般会計	16,966,101			
定期預金		163,990,872			
一般会計	146,656,607				
生福資金事業費	17,334,265				
資 産 合 計		8,948,289,139			

勇気ある一歩を支える「安心」



ボランティア保険

わずかな保険料で、傷害部分（ボランティア自身のケガ）と、賠償責任部分（活動中他人の身体・財物に損害を与えたとき）が補償されます。

保険料一名につき

Aプラン 300円 Bプラン 500円

ボランティア・福祉活動等行事保険

福祉事業総合補償制度

まごころワイド

問い合わせ・申込先

もあります

(福) 京都府社会福祉協議会

京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375

TEL 075-252-6295

福祉サービス苦情相談の受付状況について

平成14年度に、京都府社協福祉サービス運営適正化委員会において受付けた「苦情相談・問合せ件数」は95件で、前年度の59件と比較すると、約6割増となりました。その内訳は次の通りです。

苦情相談40件のうち、高齢者福祉に関するものは23件で、全体の6割弱を占めていますが、14年度は、特に児童福祉関係者からの苦情が増加しています。

苦情相談・問合せ受付件数 95件

(平成14年4月～平成15年3月)

		相談方法					合計
		電話	来所	FAX	手紙	メール	
苦情相談	福祉サービスに関する事項	20	12		1		33
	福祉サービス以外の事項	3	3			1	7
委員会業務等に関する事項		32	2				34
連絡・調整事項・その他		17	3		1		21
合計		72	20		2	1	95

「苦情相談」対応状況等 40件

(平成14年4月～平成15年3月)

	件数	対象種別				対応状況				
		高齢関係	障害関係	児童関係	その他	相談助言	紹介伝達	調査	あっせん	その他
福祉サービスに関する事項	33	18	4	11	0	23	6	2	0	2
処遇に関する事項	27	16	2	9		19	5	2		1
契約に関する事項	6	2	2	2		4	1			1
福祉サービス以外の事項	7	5	2	0	0	6	0	0	0	1
介護保険	2	2				1				1
法定外福祉サービス										0
行政施策										0
その他	5	3	2			5				0
合計	40	23	6	11	0	29	6	2	0	3

福祉サービス苦情解決事業体制整備状況について

運営適正化委員会では、平成14年7月に、「福祉サービス苦情解決事業体制整備状況に関するアンケート調査」を実施し、この程、報告書を作成しました。

この調査は、府内の社会福祉施設等における苦情解決事業の実施状況について把握し、その結果を広く情報提供し、苦情解決事業の体制整備の充実に資することを目的として実施したものです。

本調査では、府内における社会福祉法第2条に基づく1,520施設の社会福祉施設等を対象に郵送調査を行い、853施設から回答（有効回答率 56.1%）がありました。

苦情受付担当者、苦情解決責任者、第三者委員設置状況は、以下の通りでした。

第三者委員設置率のアップが、今後の課題といえます。

	回答数	苦情受付担当者		苦情解決責任者		第三者委員	
		設置数	設置率%	設置数	設置率%	設置数	設置率%
老人	363	352	97.0	358	98.6	163	44.9
身体障害	27	26	96.3	26	96.3	20	74.1
知的障害	56	52	92.9	51	91.1	45	80.4
精神障害	7	7	100.0	7	100.0	7	100.0
児童	332	257	77.4	269	81.0	58	17.5
その他	52	48	92.3	50	96.2	27	51.9
社協	15	10	66.6	11	73.3	1	6.7
不明	1	1	100.0	1	100.0	0	0.0
合計	853	753	88.3	773	90.6	321	37.6

母子家庭等自立支援センター開設

〔事業内容〕

■面接・電話相談 <TEL. 075-252-6010>

平日相談	月～金曜日	10:00～16:30
夜間相談	第2火曜日	17:00～20:30
休日相談	第2土曜日	10:00～16:30

(年末・年始は休ませていただきます。)

■巡回相談

京都府の保健所ごとに巡回して実施します。

■セミナー

就職準備セミナー・離転職セミナーを実施します。

■就業支援バンク

就業情報の提供と就労を支援します。

〔設立場所〕

〒604-0874

京都市中京区竹屋町通丸丸東入る清水町375

府立総合社会福祉会館（ハートピア京都）B1F

社福社 京都府社会福祉協議会・母子家庭等自立支援センター

京都府社会福祉協議会では、厳しい社会環境にある母子家庭等への就業・自立支援のため、家庭の状況・職業適性・就業経験に応じた就業相談・求人情報の提供を行い、自立支援を促進する「母子家庭等自立支援センター」を八月三十日に開設しました。

本センターの事業は、母子及び寡婦福祉法の一部改正（平成十四年十一月二十二日可決成立）に伴い、平成十五年度新規に国の予算で全国一斉に開始されることとなり、京都府内においては、京都府より京都府社会福祉協議会が受託することとなったものです。実施にあたっては、京都府関係行政、公共職業安定所をはじめ京都府母子寡婦福祉連合会、母子福祉推進員や市町村社会福祉協議会、民生児童委員協議会などの連携を図っていく必要があります。

京都府社会福祉協議会及び事務局受託団体の役員紹介

任期満了に伴う役員改選により、平成十五・十六年度の各団体役員が決まりましたので正副会長・委員長の紹介をします。（平成十五年七月一日現在）

■京都府社会福祉協議会（任期：平成十五年四月十六日～平成十七年四月十五日）

会長 片山 健三 学識経験者

副会長 北川 龍市 京都市社会福祉協議会会長

副会長 上窪 朱 京都府民生児童委員協議会会長

副会長 米田 信 京都府市町村社会福祉協議会会長

副会長 榎田 匠 京都府社会福祉施設協議会会長

■京都府市町村社会福祉協議会連合会

会長 米田 信 綾部市社会福祉協議会会長

副会長 福岡 善盛 木津町社会福祉協議会会長

副会長 牧 孝雄 舞鶴市社会福祉協議会会長

■京都府市町村社会福祉協議会連合会・過疎地住民福祉委員会

委員長 松田 篤二 宮津市及び予謝郡（選出区分）

副委員長 溝尻 俊幸 中郡・竹野郡・熊野郡（選出区分）

副委員長 旭 敏明 相楽郡（選出区分）

■京都府社会福祉施設経営者協議会

会長 中川 恵次 宇治明星園理事長

副会長 徳川 輝尚 京都太陽の園常務理事

副会長 朝倉 俊次 白龍福祉会理事長

副会長 榎田 匠 みねやま福祉会副理事長

■京都府社会福祉施設協議会

会長 榎田 匠 はごろも苑施設長

副会長 奥村 安夫 あげぼの学園るりけい寮施設長

副会長 伊藤 義明 登り保育園施設長

■京都府ホームヘルパー連絡協議会

会長 細見 ひろみ 三和町社会福祉協議会

副会長 森裕 美子 丹波町社会福祉協議会

副会長 石塚 千夜子 京田辺市社会福祉協議会

■京都福祉医療施設協議会

会長 伊谷 賢次

西陣病院院長

ぷらっとホーム



■病気の子どもと家族のための情報誌「Choice(チョイス)」を希望者には1冊500円(送料込)で郵送します。
 ■電話相談は、毎週火曜日
 午前10時から午後3時まで
 Tel: 075(257)6721=ファクス兼用
 Mail: kodomonet@npo-net.or.jp
 http://www.npo-net.or.jp/kodomonet/

くさんいきました。看護師の仕事を見るのに精一杯だった日々の中で病院にいる子どもたちの状況からいろいろなことを気づかされます。『入院中の子どもたちは、学校に行けない。家族と一緒にいられない。友だちと会えない。』病気がなつて、治療以外にもた

くさんのことを我慢しなければなりません。病院の中では、あたりまえのことを経験するのがとても難しいのです。そんな中、アメリカの子ども病院ではいろいろな分野のスタッフが協働して、子どもたちのケアにあたっていることを知ります。病院を辞め、ロサンゼルス子ども病院の院内学級へ勉強に行きました。そこには、子どもたちが毎日、病室から通ってきました。人工呼吸器をつけた女の子がおしゃれをして、電動車椅子に乗ってハロウィンパレードに参加します。スタッフが子どもたちのパーティーやファッションショーを企画、多くのボランティアたちが手伝って



本号からスタートした、この『新シリーズ』では、今、キラキラ輝いている人、地域に根ざして頑張っている人、いろいろな立場や思いをもっていきいき活躍している人に登場していただきます。

森田さんの第一印象は、きさくで人間味のあるひと。

仕事柄多くのリーダーにインタビューさせていただきましたが、共通して感じるの強いカリスマ性でした。たしかにリーダーにはカリスマ性が要求されるかもしれないが、そこには八ガ

病気であっても、遊ぶ機会や家族・友人との大切な時間が必要

NPO「病気と子どもネット・京都」 代表 森田 直子さん

ネの脆さも感じてきました。しかし、森田さんにはそんな気負いは感じません。インタビューの質問にも一つ言葉を選びながらの応答には、自然体の優しさが漂います。

友人の病気がきっかけで看護師になりました。病気の子どもたちと泣いたり、笑ったり、遊んだりしながら、ただ一緒にいられる仕事がいいと思っていました。看護師になって配属されたのは、子ども病院のICUでした。そこには、病院だけが知らずに、言葉を話すこともできずに亡くなっていく子どもたちがた

くさんのことを我慢しなければなりません。病院の中では、あたりまえのことを経験するのがとても難しいのです。

そんな中、アメリカの子ども病院ではいろいろな分野のスタッフが協働して、子どもたちのケアにあたっていることを知ります。病院を辞め、ロサンゼルス子ども病院の院内学級へ勉強に行きました。そこには、子どもたちが毎日、病室から通ってきました。人工呼吸器をつけた女の子がおしゃれをして、電動車椅子に乗ってハロウィンパレードに参加します。スタッフが子どもたちのパーティーやファッションショーを企画、多くのボランティアたちが手伝って

され、子どもにとってあたりまえの「遊ぶ機会」や「家族・友人との大切な時間」が持てる環境づくりをめざす「病気と子どもネット・京都」が誕生しました。

現在「子どもネット」には、医療・教育・福祉の専門家や患者会などさまざまな分野から子どもたちに関わってきた人が集まっています。「医療職も家族も子どもを思う気持ちに大きな違いはないはず。相互理解に欠けていることがいろいろな心のズレを生み出しているようです。仲間とともに子どもに関わる人たちが同じ思いで協働できるネットワークづくりを進めていきたいと思っています。」と語る森田さんからは、看護師としての経験、その後の活動の中で経験されたことに裏打ちされた、強い信念が伝わってきました。

子どもネットでは、病気の子と家族のための情報誌「Choice」を発行しました。この本には、病気の子と家族のための情報とともに、たくさんの人からのメッセージが込められています。役に立つ情報が掲載されているだけでなく、作り手の思いが伝わってくる情報誌になっています。購入を希望される方は、上記までご連絡ください。